



# 匠 生業の継承者たち

—牛深節づくりの後継者—

「日本一の削り節原料の産地を目ざして」

市山 甲太 さん (久玉町・37歳)

削り節の原料となるサバ節などを専門に製造する水産加工会社の2代目社長。父親の後を継いで12年になる。会社を継いだ当時は、バブル崩壊で景気が低迷。さらに漁獲量が激減し、まさにどん底だった。

熊本市内の高校を卒業して帰郷し、家業の手伝いを始めたが、最初は魚の種類さえわからずに、何度か逃げ出したこともあった。

転機となったのは、大阪にある削り節の卸売先での研修。「客の要望や好みに合わせて、サバ節などを削って調合

する2次加工の現場では、牛深産の削り節の原料である牛深節はなくてはならないものだった。自分たちが製造したものの必要性を肌で感じ、「消費者に喜んでもらえる製品を作りたい」「次の世代に残せる仕事にしたい」など、次々に目標ができた。そして、先代との価値観の違いや経験のなさなどをどうしたら補えるかと自問自答しながら、持ち前の負けん気で自分なりの価値観を見いだした。

削り節の原料は、ゆでた魚を乾燥させた後、くん製するなどして作るが、魚の種類や脂ののり具合などでできる削り節の原料は約20種類にも及ぶ。また、地域によってだし好みも異なるので、製品のでき具合などを見て、卸し先を決めている。仕入れから完成までの工程はすべて、市山さんの経験と勘だけがたよりだ。

夢は、「牛深を日本一の削り節原料の産地にすること」。自他ともに認める日本一を目ざして、今後も質の良い、おいしい牛深節づくりに励む。

# ハッピーバースデー

1歳になりま〜す



中原 梨花 ちゃん

本渡町本渡  
平成19年1月19日生  
父・謙さん 母・かおりさん  
まねっこ大好き！  
みんなこれから仲良くしてね♡



田中 楓華 ちゃん

亀場町亀川  
平成19年1月19日生  
父・孝幸さん 母・由希さん  
明るく、元気で  
笑顔のすてきな子に育ってね!!



笠松 元気 くん

倉岳町棚底  
平成19年1月11日生  
父・勇介さん 母・奈留美さん  
トリックスター元気☆  
『one for all』



濱崎 悠平 くん

本渡町本渡  
平成19年1月26日生  
父・輝彦さん 母・ひろ子さん  
“海里お姉ちゃん、美波お姉ちゃん”  
いつもお世話してくれてありがとう♡



佐々木 凜音 ちゃん

牛深町  
平成19年1月29日生  
父・竜輔さん 母・みゆきさん  
未来姉ちゃん、大空兄ちゃん  
大好き！パパも大好きだよ。



川元 心暖 ちゃん

牛深町  
平成19年1月30日生  
父・太郎さん 母・弥生さん  
保育園でたくさんお友だち  
作りたいなあ〜!!

2月で満1歳になるお子さんを募集します！  
●応募期限=1月11日(金)まで(必着)。  
●応募方法=写真裏にお子さんの住所、氏名(ふりがな)、生年月日、性別、電話番号、コメント(30字以内)、保護者名(父・母)を記入し、〒

863-8631(住所記載不要)天草市役所秘書課へ郵送または持参してください。なお、写真はお子さんが大きく、鮮明に写っているものをお願いします。また、写真の掲載は6人まで(応募者多数の場合は抽選)とし、応募写真は返却しません。

11月17・18日、しんわ楊貴妃祭りを開催。同祭りに、約5,000人が訪れました。

17日に大尾尾漁港周辺で開いた「えびす市」では、船団パレードや鯛釣り、魚のつかみ取りなどを実施。また、夜の「楊貴妃ナイトハイク」では、スタート地点にある楊貴妃像を宮地浦楊貴妃伝説事業推進協議会(谷山二亮・会長)が竹ぼんざりで行った。

参加者50人は、幻想的な光りの中、楊貴妃太鼓倶楽部の打ち鳴らす太鼓の音を聞きながら出発し、10kmのコースを最後まで歩きまわりました。

翌18日は、昨年度から始めた「竜の玉入れ選手権」に市内各地から33チームが参加し、ベストタイムを競いませた。残り時間1分を知らせる



▲竜の玉入れ選手権では優勝賞金10万円を目ざし、熱戦を展開!

## 地域が動く 天草が動く

第11回しんわ楊貴妃祭りを開催

しんわ楊貴妃祭り推進協議会(平田豊会長)

音楽がなると、選手も応援団もはらはらドキドキしながら盛り上がりつつありました。また、農産物の品評会と展示販売や、天草工業によるミニ電車の乗車会、加工品販売・各地区振興会コーナーなどが設けられた夕やけ市も行われ大盛況。最後は土鍋き音頭ともち投げを行い、全イベントを終りました。

## みんなの声

イノシシが出没して困っています。何か対策は?

イノシシが自宅の近くに出没して大変怖いです。来ないようにする方法はないでしょうか。また、被害に遭わないようにするにはどうしたらよいでしょうか。

〔匿名希望〕

【お答えします】

市では、有害鳥獣捕獲対策協議会の協力を受けて、平成18年度は2,442頭、同19年度は11月末までに1,010頭のイノシシを捕獲しました。しかし、島内にはこの数倍のイノシシが生息していると考えられており、農作物への被害などを少なくするため、今後も捕獲対策を推進したいと考えています。

イノシシが頻繁に出没する場所には、イノシシが好む食べ物などがあるからだと考えられています。

イノシシが来ないようにするには、①屋外に生ゴミなどエサになるものを放置しない

②イノシシはやぶを好むので、耕作放棄地や山際に生えた雑草などをきれいに刈り取るなどの対策が必要です。

イノシシは本来、臆病でおとなしい動物ですが、子連れのイノシシやケガをしているイノシシは気性が荒くなっていますので、絶対に近づかないでください。

なお、農地の場合はイノシシの侵入を防止し、農作物を守るための被害防護策(電気牧柵等)設置事業を行っています。電気牧柵とは、農地を柵で囲い電気が流れる線を張り巡らせ、その線に電気を流しショックを与えて追い払うもので、現在のところ一定の効果を得ています。同事業についての詳しいことは、本庁(別館)・農林整備課林務係 ☎231111(内線2592) または牛深支所・産業振興課、その他の支所・産業建設課へお尋ねください。

〔本庁(別館)・農林整備課林務係〕